

2019年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492300163	事業の開始年月日	平成26年4月1日
		指定年月日	平成26年4月1日
法人名	株式会社 美咲		
事業所名	グループホームみさき前川		
所在地	(256-0813) 神奈川県小田原市前川540-5		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和元年12月20日	評価結果 市町村受理日	令和2年6月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年間行事予定表をしっかりと企画し入居者様が少しでも楽しく自分らしく過ごして頂けるよう個々の対応に力をいれ月1回入居者様の様子をご家族様宛に新聞として発行しご家族様にもしっかりと様子を報告しご家族様が安心して施設に親御様を預けてよかったと思っただけの施設です。また地域との交流を大切にして地域の敬老会や懇談会に出席して地域とんぼ交流を深めている施設です。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年1月22日	評価機関 評価決定日	令和2年4月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR東海道本線「国府津」駅から「二宮駅北口」行きバスで、「小学校前」バス停下車、徒歩約5分の、国道から山側に入った閑静な住宅街に位置しています。建物は、軽量鉄筋造りの2階建てで、相模湾や箱根の山々が望めます。入居者が利用する散歩コースの途中には神社があります。

<優れている点>

職員は、入居者の一人ひとりのこれまでの人生経験を尊重し、これからも自分らしく生活が送れるように支援しています。入居者や家族と職員のコミュニケーションも良好で、信頼関係が構築されています。家族には、毎月「みさき前川新聞」や「入居者のご様子」を送付し、入居者の様子を知らせています。また、入居者や家族の希望や要望などを把握するように心がけ、気付いたことは毎日の「管理者報告」で、管理者に報告すると共に、職員間でも情報を共有し、入居者の満足度向上に迅速な対応を行う仕組みを構築しています。散歩の機会を増やしたり、行事の充実などの改善を行っています。職員は、4つの委員会活動を行い、自ら考え行動し、入居者へのより良い生活支援サービスの提供に努めています。

<工夫点>

環境整備委員会を設置し、環境整備に取り組んでいます。職員は毎日、居室、フロア、トイレ及び脱衣所の隅々まで清掃を行い、チェックリスト「みさき前川施設環境ルール」で確認を行い、清潔保持に努めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみさき前川
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を基にサービス提供に努めています。	玄関とフロアの事務室前には、「企業理念」を掲示し、フロアの事務室内には、職員が昨年話し合って決めた「事業所理念」と「企業理念」を掲示しています。職員は、常に「理念」を目にして理解を深め、入居者へのより良い自立支援サービスの提供に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	中学校の職場体験の受け入れや地域の敬老会への出席や近隣への散歩にでかけ地域の方との会話ができるよう配慮をおこなっています。	自治会にはまだ未加入ですが、自治会及び隣接する自治会の会長が運営推進会議に出席しています。近隣住民とは散歩時や、地域の敬老会参加などを通じて交流に努めています。中学生の職場体験、オカリナやマジックなどのボランティアも受け入れています。	自治会には未加入ですが地域と交流しています。今後、自治会に加入し、地域に密着した交流を更に深めることも期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を定期的に行い、施設の情報開示や報告を行い開かれた施設の運営を行っています。また地域圏域会議に出席し地域の様々な方と意見交換を行い災害時の緊急避難場所としての受け入れ等の依頼を受けています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	施設内での職員全員での取組みや実施状況の報告や運営推進会議でのご意見を取り入れ地域の連携や取組みを地域と施設の合同にて取組み実施を予定しています。	運営推進会議は、自治会々長、隣接する自治会々長、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所のオーナー及び管理者が出席して隔月で開催しています。会議では、事業所の運営状況、事故、委員会活動や行事などを報告し、アドバイスを得ています。	運営推進会議に、家族の参加が実現出来ていません。今後も出席への呼びかけを継続し、家族の出席に繋がるのが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	災害時の一時緊急避難場所としての開放等の依頼や生活保護者の受け入れ相談等にての連携を行っています。	高齢介護課とは入居者の全般的な事項について、生活支援課とは生活保護者の生活支援について情報交換しています。地域包括支援センターとは、運営推進会議などを通じて、地域の一時避難場所としての事業所の活用など、地域交流促進の提案を受けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を3カ月に1回開催して事例検討にて職員全員にて意見交換し対策やケア方法を見直し職員全員にて実施。	身体拘束委員会を3ヶ月ごとに開催し、身体拘束の有無の確認と適正化について討議しています。また、毎月研修会を開催し、身体拘束の事例検討などを通じて身体拘束禁止の対象になる行為の確認や防止策を検討し、身体拘束の廃止に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部講師を招き事例検討会を開催して虐待防止しに職員全体にて実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人が必要なケースな場合は管理者が対応しその後職員へ周知報告にて対応。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時に専門用語等ではなく一般の方にも分かりやすいよう時間等かけ丁寧に説明し理解をしていただき都度必要なケースに再度説明を行って対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	法人全体にて家族アンケートを実施して各施設にての意見を法人の方で精査し施設にての取り組みを行い取り組みを施設に開示している。	家族に「みさき前川新聞」や「入居者のご様子」を毎月送付して入居者の様子を知らせています。入居者との会話や家族面会時の家族との会話及び「家族アンケート」などで、希望や要望の把握に努めています。要望により散歩や行事などの充実に取り組んだ事例もあります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員との全体会議を行い情報共有や意見交換を行いその結果を業務内にて実施している。また日々の管理者と職員との業務連絡や意見を身近に取り入れるため毎日管理者報告を実施している。	月1回の「職員会議」や「施設環境整備委員会」など、4つの委員会活動を通じて、職員の意見や提案の把握に努めています。また、毎日、「管理者報告」で、業務遂行上の職員の気付きなどを管理者に報告し、課題に対して迅速に対応する仕組みを構築しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	本社との距離感が以前はありましたが代表に代わり本社管理職が毎月施設訪問を行い管理者以外の職員との意見を聞くなどして職員個々の状況を把握に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人主催にて外部研修を実施できるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会に加入していて地域の他施設との交流を管理者のみが行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	必要に応じて職員個々と業務以外のことについても面談を行い状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	職員からの情報収集や自らご家族に問いかけ都度ご家族の意見に耳を傾け相談や問題解決を速やかに行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御家族からの相談や問題等に応えるため相談を受けた時点にて他職員と状況把握に努めすぐに問題解決を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者本人やご家族とともに考え一緒に悩み楽しい時も悲しい時もともに家族のように支えあっています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族とも一緒に悩み考え分かちあえる関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者個々の気持ちを尊重しお話しやすい環境を提供しています。	入居者と家族との外食も支援しています。また入居者を2グループに分け、ショッピングモールに出かけて食事を楽しみ、外の空気を感じたり季節感を味わう支援も行っています。その際に料理用ハサミを持参し、料理を細かく刻むなどの配慮をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食席の配慮や入居者個々の状況把握に努め個々の趣向に合わせて取り組みを実施。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後のやりとりはないが施設入所の場合については来訪して関係者を通じお話をきくこともある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的なアセスメントやモニタリングを行い本人の意向を把握している。	職員と入居者や家族は、打ち解けた会話ができる風土があります。職員は生活歴に加え、定期的なアセスメントやモニタリングにより入居者の理解を深めています。入居者との日常の会話や面会時の家族との会話から一人ひとりの希望や意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の本人からのアセスメントにての生活歴の把握やご家族や親族からの情報提供にての把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居時の情報だけではなく入居してからの様子観察を行い状態把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の様子観察にての情報把握をもと職員全体にてカンファレンスを開き介護計画を作成している。	「ケアプラン」は、管理者、計画作成担当者及び介護職員が出席した「ケアプラン会議」で決定しています。その際、短期目標の3ヶ月ごとに実施するアセスメント、モニタリング、毎日の「管理者報告」や「介護記録」などの情報、入居者と家族の希望なども組み込んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録に様子やケアの実践を行っているかを残し状態変化に応じて見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者の状況や状態変化に応じ対応や提案等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	入居者本人の個々の能力に応じ安心安全を配慮し積極的にできることを支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医と連携を図り必要時にご家族を交えお話を必要に応じてご家族とも相談しながら外部医療機関受診等を行っています。	入居の際に入居者・家族の同意を得た上で、原則として協力医療機関をかかりつけ医とし、フロアごとに月2回訪問診療を受けています。診療日前日には事業所から医療機関に情報をFAXし、診療結果などは「診療前・診療後情報」に記載して職員間で共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護導入を行い個々の情報提供を行い連携を図り支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	互いにサマリーでの状態把握にや病院への訪問にて関係者との面談などを行い情報共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約にて意向をお伺いし、または急激な状態変化などある場合は速やかにご家族様との話し合いを行っています。	重度化や終末期に向けての方針は、入居時に文書で説明し、入居者・家族の意向確認を行っています。終末期になり入居者・家族が事業所での生活を希望した場合には、医療機関と検討した上で再度意向を確認し、職員も協力してターミナルケアに当たっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内にての研修や緊急時対応マニュアル等に各職員に周知徹底をおこなっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害マニュアルに沿い対応をおこなっていて法令に定められている年2回の避難訓練を実施しています。	入居者も参加し、歩行困難者の移動方法も確認しながらの避難訓練を年2回実施しており、1回は消防署が立ち会っています。非常食料は3日分備蓄しています。地域との協力体制も出来始めており、災害時の一時避難場所としての事業所の活用が検討されています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の職員が個々の入居者に配慮して言葉かけを対応しています。	人前での介助や、トイレ誘導などの際には、目立たずさりげない対応をしています。入居者への言葉かけは、誇りを傷つけないよう配慮しながら、一人ひとりの好みや職員との関係性を考慮に入れ、コミュニケーションがとりやすい語調で行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	言葉かけも少人数の施設などで1人の入居者に固執せずみんなが発言できる環境作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々を尊重し、強要するのではなく自分のペースにて日々生活していただくよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自身の意思を尊重して自身で行える方は自身で行うよう支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	お楽しみ食や行事食を取り入れ様々な食事の提供を行っています。	食材は外部の配食サービスを利用しています。月1回特注メニューを楽しんだり、ショッピングモールの回転寿司やコーヒーチェーン店に出かけるなどの工夫をしています。夏祭りのバイキング、敬老会の祝膳、クリスマス会の料理など、行事食も取り入れています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の1日に必要なカロリー摂取や水分量を把握して状態に合わせて食形態をくふうなどして提供をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後には自身で行える方は自身で行えるよう声掛けし支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自立支援を促しトイレにてできるだけ排泄を行えるよう日々支援をしています。	「生活記録」の記載や職員の観察、訪問看護師の協力などを通して入居者個々の排泄パターンを把握し、声かけ・誘導を行ってトイレでの排泄に繋がっています。夜間帯にパッドを使用している場合は、ケアプランの更新に合わせて見直しを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	施設内での生活にて運動量も少ないためレクリエーションでの運動にて身体を動かし便秘予防等につとめています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	個々のペースに合わせて1日3人という少人数の対応をしゆったり入浴していただくよう心がけています。	入浴は通常週2回入っています。入らない日は足浴や足の清拭を行っています。入浴時に入居者との会話から得た情報は、身体の観察結果などと併せて「生活記録」に記載し、支援に役立てています。入浴拒否があった場合は時間を変えるなどして対応しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の意思を尊重して就寝していただけるよう日々状態変化等に応じては声掛けも行き支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	理解は難しい方が多いですが声掛けにて服薬管理を行い服薬をしていただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	季節の行事や日々のレクリエーションや職員の業務のお手伝い等を行い日々の生活の張り合いなどを感じていただくよう支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節によりが外出のレクリエーションや近隣への散歩を実施したりご家族との外出や外食などにお出かけできるよう支援しています。	寒い時期を除き、1日2人(車いす利用者も含む)の散歩を職員がマンツーマンでサポートしており、地域の人とのコミュニケーションなども楽しんでいます。また、年間の外出行事の予定を立て、花の名所や地域の祭礼などへ出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	該当なし。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	該当なし。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じて頂けるようにて装飾などや作品などを掲示しています。	早出、昼勤、遅番の各職員は、チェックリストを使って毎日フロア、トイレ、脱衣所の清掃を行っており、常に清潔な状態が保たれています。洗面台の清潔維持にもチェック表が活用されています。居間兼食堂には、時の見当識に配慮し、手作りの大きな日めくりカレンダーが掛けられています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間にはソファがあり気の合う入居者同士がつどえるような場所があります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個々の好みや置物や掲示物などを自由にできるようにしています。	居室は毎日職員の清掃チェックを受けており、清潔です。ベッド、エアコン、カーテンは備え付けで、転倒防止のためにベッドを取り除き、畳マットの上に布団を敷いた部屋もあります。入居者は好みの物を持ち込み、その人らしい居室にしつらえています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	日々のレクリエーションや個々のレクリエーションなどにて支援しています。		

事業所名	グループホームみさき前川
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を基にサービス提供に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	中学校の職場体験の受け入れや地域の敬老会への出席や近隣への散歩にでかけ地域の方との会話ができるよう配慮をおこなっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を定期的開催し、施設の情報開示や報告を行い開かれた施設の運営を行っています。また地域圏域会議に出席し地域の様々な方と意見交換を行い災害時の緊急避難場所としての受け入れ等の依頼を受けています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	施設内での職員全員での取組みや実施状況の報告や運営推進会議でのご意見を取り入れ地域の連携や取組みを地域と施設の合同にて取組み実施を予定しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	災害時の一時緊急避難場所としての開放等の依頼や生活保護者の受け入れ相談等にての連携を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を3カ月に1回開催して事例検討にて職員全員にて意見交換し対策やケア方法を見直し職員全員にて実施。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部講師を招き事例検討会を開催して虐待防止しに職員全体にて実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人が必用なケースな場合は管理者が対応しその後職員へ周知報告にて対応。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時に専門用語等ではなく一般の方にも分かりやすいよう時間等かけ丁寧に説明し理解をしていただき都度必要なケースに再度説明を行って対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	法人全体にて家族アンケートを実施して各施設にての意見を法人の方で精査し施設にての取り組みを行い取り組みを施設に開示している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員との全体会議を行い情報共有や意見交換を行いその結果を業務内にて実施している。また日々の管理者と職員との業務連絡や意見を身近に取り入れるため毎日管理者報告を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	本社との距離感が以前はありましたが代表に代わり本社管理職が毎月施設訪問を行い管理者以外の職員との意見を聞くなどして職員個々の状況を把握に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人主催にて外部研修を実施できるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会に加入していて地域の他施設との交流を管理者のみが行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	必要に応じて職員個々と業務以外のことについても面談を行い状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	職員からの情報収集や自らが家族に問いかけ都度ご家族の意見に耳を傾け相談や問題解決を速やかに行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御家族からの相談や問題等に応えるため相談を受けた時点にて他職員と状況把握に努めすぐに問題解決を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者本人やご家族とともに考え一緒に悩み楽しい時も悲しい時もともに家族のように支えあっています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族とも一緒に悩み考え分かちあえる関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者個々の気持ちを尊重しお話ししやすい環境を提供しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食席の配慮や入居者個々の状況把握に努め個々の趣向に合わせて取り組みを実施。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後のやりとりはないが施設入所の場合については来訪して関係者を通じお話をきくこともある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的なアセスメントやモニタリングを行い本人の意向を把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の本人からのアセスメントにての生活歴の把握やご家族や親族からの情報提供にての把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居時の情報だけではなく入居してからの様子観察を行い状態把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の様子観察にての情報把握をもと職員全体にてカンファレンスを開き介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録に様子やケアの実践を行っているかを残し状態変化に応じて見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者の状況や状態変化に応じ対応や提案等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	入居者本人の個々の能力に応じ安心安全を配慮し積極的にできることを支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医と連携を図り必要時にご家族を交えお話をし必要に応じてご家族とも相談しながら外部医療機関受診等を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護導入を行い個々の情報提供を行い連携を図り支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	互いにサマリーでの状態把握にや病院への訪問にて関係者との面談などを行い情報共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約にて意向をお伺いし、または急激な状態変化などある場合は速やかにご家族様との話し合いを行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内にての研修や緊急時対応マニュアル等に各職員に周知徹底をおこなっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害マニュアルに沿い対応をおこなっていて法令に定められている年2回の避難訓練を実施しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の職員が個々の入居者に配慮して言葉かけを対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	言葉かけも少人数の施設などで1人の入居者に固執せずみんなが発言できる環境作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々を尊重し、強要するのではなく自分のペースにて日々生活していただくよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自身の意思を尊重して自身で行える方は自身で行うよう支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	お楽しみ食や行事食を取り入れ様々な食事の提供を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の1日に必要なカロリー摂取や水分量を把握して状態に合わせて食形態をくふうなどして提供をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後には自身で行える方は自身で行えるよう声掛けし支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自立支援を促しトイレにてできるだけ排泄を行えるよう日々支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	施設内での生活にて運動量も少ないためレクリエーションでの運動にて身体を動かし便秘予防等につとめています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	個々のペースに合わせ1日3人という少人数の対応をしゆったり入浴していただくよう心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の意思を尊重して就寝していただけるよう日々状態変化等に応じては声掛けも行き支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	理解は難しい方が多いですが声掛けにて服薬管理を行い服薬をしていただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	季節の行事や日々のレクリエーションや職員の業務のお手伝い等を行い日々の生活の張り合いなどを感じていただくよう支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節によりが外出のレクリエーションや近隣への散歩を実施したりご家族との外出や外食などにお出かけできるよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	該当なし。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	該当なし。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じて頂けるようにて装飾などや作品などを掲示しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間にはソファがあり気の合う入居者同士がつどえるような場所があります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個々の好みや置物や掲示物などを自由にできるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	日々のレクリエーションや個々のレクリエーションなどにて支援しています。		

令和元年度

目標達成計画

事業所名 グループホームみさき前川

作成日： 令和 2年 6月5日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害対策について昼夜問わず地域との協力体制について検討がなされていない。食品以外の備蓄が不十分、リストを作成する事で揃えやすくする。	地域との連携を図り災害時の食料品を含め備品の整備を図り地域住民の災害時の一時避難場所等に利用できるよう自治体との連携を深め行っていく。	防災訓練では、地域の方に参加していただき。訓練以外にも研修を行ない、避難方法を身につける。備蓄は、食品以外にも必要品リストを作成し備える。	6ヶ月
2	2	地域との交流は以前よりあり、さらに交流を深めていくには自治会への加入をしてさらに地域との交流を図る。	地域交流をさらに図るため地域ボランティア活動に参加したり、地域の学校や他の福祉団体との交流を図る。	職業体験や他の福祉団体の行事に参加を行い交流を図るなどを行うなどの活動を積極的に行う。	6ヶ月
3	7	職員を育てる取り組みとして毎月研修を行っているが研修内容がマンネリ感があり職員のスキルアップにはと疑問を感じる。	毎月研修を行うが内容を実例など幅広く取り入れて行っていく職員のスキルアップにつなげたい。	研修内容の見直しや研修を少人数にて行いグループワークを行うなどして課題に向けて考えさらに最後に復習としてテスト方式を行うなどして職員個々のレベルアップを図り業務に活かしていきたい。	12ヶ月
4	3	運営推進会議は自治会や、地域包括支援センターの方々が参加して通常どうり行っているがご家族の参加までは至っていない。	運営推進会議は現状どうり行い、さらにご家族様に向けた懇談会等を行えるような体制に整備していきたい。	年1回のペースにて家族懇談会を開催していきご家族様との交流を深め行事などにも積極的に参加を促していきたい。	12ヶ月
5					ヶ月